八戸レポート 11月号

平成27年10月の八戸市内での出来事や、
八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

No.	項　目
1	八戸市営バスが新車15台導入　ステッカーでスポーツチーム応援も
2	中国・蘭州市の中学生　八戸で友情育む

【産業】

No.	項　目
3	「八戸前沖さば」旬到来　推進協がブランド認定出発式開く
4	八戸港　大中型巻き網船団の水揚げ最盛期　今季最多の2731トン
5	エプソンアトミックス　北インターの工場増設へ
6	北インター工業団地　分譲率8割突破
7	八戸港　17年ぶりに新規国際航路開設

【地域】

No.	項　目
8	米に漂着した厳嶋神社の鳥居　横浜市で返還式
9	縄文なべまつり開催　～熱々せんべい汁に舌鼓～
10	交通アテンダント「はちこ」の川村さん　運転士で再出発
11	種差海岸の芝　多様性少なく将来的には絶滅も！？
12	色合い深める青葉湖で屋形船遊覧運航始まる
13	食品スーパー運営の「よこまち」　移動スーパー2号車導入
14	「サケトバ」作り真っ盛り　～冷たい潮風にうま味蓄積～
15	救急功労者・総務大臣表彰に八戸市民病院の今副院長が受賞！
16	「飛鳥II」八戸に寄港　乗客800人を歓迎

【文化・スポーツ】

No.	項　目
17	歌人柳原白蓮の歌テーマに「蕪嶋の舞」完成
18	「新日本歩く道紀行100選シリーズ」に　種差遊歩道など認定
19	明治神宮献詠短歌大会　八戸市の杉山靖子さんが特選
20	「第20回全国朝市サミット2015in八戸」開催
21	全国高専プログラミングコンテスト　八戸高専チームが初優勝！
22	ウルスラ高の奥平さん　声楽コンクール2大会で頂点！
23	今秋　三浦哲郎氏のイベント続々開催
24	八戸ふるさと検定　受験者2000人超えへ

【県内】

No.	項　目
25	青森県内でニホンジカの目撃最多　2015年度延べ41件46頭

【 行 政 】

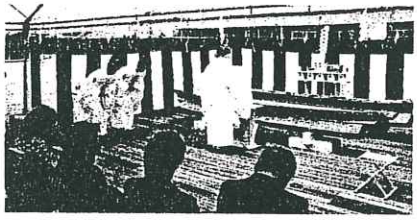
No.	レポート
1	**八戸市営バスが新車１５台導入　ステッカーでスポーツチーム応援も** 八戸市は10月から市営バスに新車15台を導入した。市営バス事業の不良債務や累積損失が膨らんでいたため、ここ数年は老朽化した車両の更新は中古車が中心だったが、2013年度決算で不良債務がゼロになり、累積赤字も減少していることから、新車の大量導入に踏み切った。導入した15台は60人ほどが乗れる中型で、低床のワンステップバス。乗降口には足元を照らすLEDライトを付けたほか、窓ガラスは専用のシートを使って紫外線や日光を遮るようになっている。また、県内のスポーツチームを応援するステッカーを貼付したバスもお目見えした。
2	**中国・蘭州市の中学生　八戸で友情育む** 八戸市の友好都市、中国・蘭州市の教員や生徒でつくる青少年友好交流団37人が、10月14日に八戸市を訪問した。蘭州市は1997年からこれまでに計11回、交流団を派遣してきており、今回は同市の3校の生徒が訪れ、市内の家庭にホームステイをして友情を深めた。15日以降は、八食センターや種差海岸など市内各所の見学、八戸東中学校などを訪問、18日に八戸市を出発し、宮城県や東京を観光して羽田空港から帰国した。

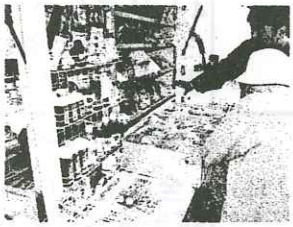
【 産 業 】

No.	レポート
3	**「八戸前沖さば」旬到来　推進協がブランド認定出発式開く** 八戸前沖さばブランド推進協議会は10月6日に八戸市第一魚市場で2015年のブランド認定出発式を開き、関係者が旬の到来を祝ってテープカットした。ブランド認定事業は2007年に開始され、毎年水揚げ状況や粗脂肪分、重量などを参考に期間を判断している。八戸前沖さばは協議会が認めた期間に三陸沖以北の日本近海で漁獲し、八戸港に水揚げされたサバ、と定義され、今年は9月24日以降の水揚げ分が対象となる。第一魚市場では6日に青森県内外の大中型巻き網船が、サバ計約1228トンを水揚げし、セレモニーに花を添えた。
4	**八戸港　大中型巻き網船団の水揚げ最盛期　今季最多の２７３１トン** 八戸港で、大中型巻き網船団の水揚げが最盛期を迎えている。八戸市第一魚市場には6日、北海道東沖や八戸近海で漁獲したサバ、イナダ、マイワシ計約2731トンが水揚げされ、数量は9月29日の約1860トンを上回って今季最多を更新。大量の上場に、魚を見極める仲買業者の目には力が入り、輸送トラックも岸壁をひっきりなしに行き交った。
5	**エプソンアトミックス　北インターの工場増設へ** セイコーエプソン（本社・長野県諏訪市）のグループ会社・エプソンアトミックスは、北インター工業団地の「北インター事業所」にある微細合金粉末工場を増設すると発表した。今回、同事業所と隣接する土地1万平方メートルを県から取得して工場の面積を約5300平方メートルに広げ、後工程のラインを新設。精整能力を約2倍にし、製品の安定供給や、受注から出荷までの時間短縮につなげる。2016年3月に着工、2017年4月に稼働開始予定。
6	**北インター工業団地　分譲率８割突破** 八戸市北インター工業団地の分譲率が、10月14日現在で8割を超えた。近年、分譲が進むのは、全国的な景気の回復基調や、老朽化施設の建て替えと災害リスク軽減を見据えた物流機能の再編など、地元内外の投資意欲が高まっているため。近年の分譲率上昇を受け、市は本年度から新産業団地の整備に向けた事業に着手したが、最短で5～6年を要する見通しである。北インターは現在のペースで進めば6年余りで埋まる計算で、受け入れの限界が迫ってきている。

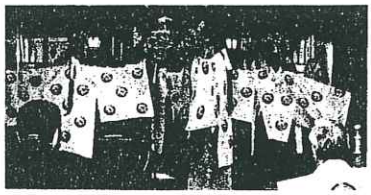
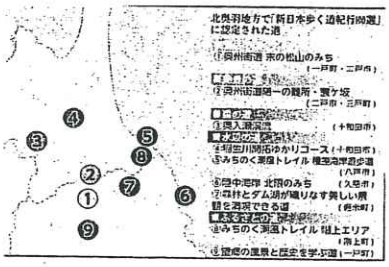
7	**八戸港　17年ぶりに新規国際航路開設** 韓国の船会社・長錦商船（本社ソウル市）が新設した八戸港一釜山港（韓国）間の定期コンテナ航路の第1便が10月27日午前、八戸港に入港した。同港に国際コンテナ航路が新設されるのは17年ぶり。午後1時からの荷役作業に先立ち、初入港歓迎セレモニーが開かれ、長錦商船の日本現地法人・シノコー成本のノヒョンソク社長が「新たな荷主の出荷も積極的に行い、同港のコンテナ取扱量の増加に貢献する」とあいさつした。稼動する国際定期航路は、既存の中国・韓国航路と合わせて2社で週3便体制に拡充する。

【 地 域 】

No.	レポート
8	**米に漂着した厳嶋神社の鳥居　横浜市で返還式**  2011年3月の東日本大震災に伴う津波で八戸市の大久喜漁港の厳嶋神社から流失し、2年後に米国オレゴン州に流れ着いた鳥居の一部「笠木（かさぎ）」の返還式が、返還に尽力した日米両国の関係者により10月1日に横浜市で開催された。式典では日本に無事に到着したことへの感謝と、これからの安全の祈りを込めて神事が行われた。10月3、4日に八戸市の大久喜小学校隣りの浜小屋で一般公開され、4年半ぶりに地元に戻った笠木に、地元住民や関係者らは復興への思いをかみしめた。その後、鳥居を作った大工が修復作業を進め、2016年4月までには再建される見込みである。
9	**縄文なべまつり開催　～熱々せんべい汁に舌鼓～** 10月12日、八戸公園で毎年恒例の「縄文なべまつり」が開かれ、巨大な「縄文なべ」で作られたせんべい汁約2800食が来場者に提供された。八戸パークホテルの料理人7人が午前中から仕込みを行い、直径3メートル、深さ0.8メートルの鍋にせんべい約6千枚と鶏肉、ニンジン、ゴボウなどを入れて調理。1杯100円のチケットを販売し、正午から購入者に提供した。市民らは芝生の上にシートを広げ、熱々のせんべい汁に舌鼓をうっていた。
10	**交通アテンダント「はちこ」の川村さん　運転士で再出発** 八戸公共交通アテンダント「はちこ」を務めていた八戸市の川村奈津子さん(39)が、南部バスの運転士に転身した。川村さんは、県内バス会社のガイドや、事務員などを経て今年3月まで約2カ月間、「はちこ」としてバス車内や八戸駅などで案内業務に携わった。南部バスに免許取得費の一部を助成する事業があることを知り、今年5月に入社。運転士育成事業を活用して大型2種免許を取得し、7月下旬から八戸営業所の運転士としてハンドルを握っている。「乗り継ぎ案内や乗客目線に立った接客など、『はちこ』時代に学んだ経験を生かしていきたい」と意欲を語っている。
11	**種差海岸の芝　多様性少なく将来的には絶滅も！？** 種差海岸天然芝生地の芝は、恒久的な天然芝生の維持に欠かせないとされる「遺伝子的な多様性」が少ないことが、東北大大学院生命科学研究科の佐藤修正准教授らの研究グループの調べで分かった。芝の多様性は、草食動物が種子を食べてふんとして排せつし、大地に根付くという「種子繁殖」で維持され、種差海岸ではかつては、放牧の馬を中心とする動物によって常に多様性が生み出されてきた。しかし、人が芝を維持管理し、種子繁殖を助ける動物の存在が無くなっている現状を踏まえ「長い目で見た場合、多様性が無くなり、絶滅してしまう可能性も否定できない」と佐藤准教授は話している。

12	**色合い深める青葉湖で屋形船遊覧運航始まる** 紅葉が見頃を迎えつつある八戸市南郷の青葉湖で、10月24日から屋形船遊覧の運航が始まった。この湖は2003年に完成した世増（よまさり）ダム建設に伴う人造湖で、ナラやカエデ、ケヤキなどが湖岸近くまで生い茂っている。紅葉のピークは11月上旬まで。「手つかずのまま斜面に生い茂る大自然の紅葉を満喫してほしい」と関係者は話している。屋形船は定員9人で、新水吉橋近くの発着点から45分かけて湖を一周、11月3日まで1日5便運航する。
13	**食品スーパー運営の「よこまち」　移動スーパー２号車導入** 食品スーパーを運営する、よこまち（八戸市、横町俊明社長）は、買い物に困る高齢者宅を回って商品を販売する「移動スーパー」の2号車を、5月に運用を始めた1号車に続き導入した。冷蔵庫付きの専用軽トラックに生鮮品や日用品など300～400商品を積み込み、曜日ごとに決められたコースを回る。「実際に商品を見て買えるのがうれしい」と利用者は買い物を楽しんでいる。横町社長は「まだまだ要望は多い。早い時期に10台体制にしたい」と話している。 
14	**「サケトバ」作り真っ盛り　～冷たい潮風にうま味蓄積～** 八戸市鮫町の大久喜漁港に近い川崎商店では、八戸前沖で捕れたサケを干した「サケトバ」作りが真っ盛り。冬の葉とも書くトバ作りは、ことしは10月23日にスタート。捕れたての秋のサケを塩水で洗いながらさばいて冷凍し、解凍後身を数本に裂いて、1週間ほど陰干しすると完成する。身は冷たい潮風にさらされながら日ごとにあめ色が濃さを増し、うま味が凝縮されていく。トバ作りは11月末まで続く。
15	**救急功労者・総務大臣表彰に八戸市民病院の今副院長が受賞！** 八戸市立市民病院の今明秀副院長が、地域の救急医療に貢献し、公共福祉の増進に功績のある個人や団体に贈られる「救急功労者表彰」の総務大臣表彰を受けた。総務大臣表彰は2008年度に新設され、2015年度は全国から15人1団体が選ばれた。救急隊員に対して医師が検証や助言をし、救急活動の質を保つ「メディカルコントロール」に尽力したことなどにより、八戸消防本部消防長の推薦を受け、その功績が認められた。今副院長は「地方で奮闘する医師に光が当たることもあるのだなと思った。非常にうれしい」と喜んでいる。
16	**「飛鳥Ⅱ」八戸に寄港　乗客８００人を歓迎** 日本籍で最大の客船「飛鳥Ⅱ」が10月29日、八戸港八太郎4号埠頭P岸壁に寄港した。飛鳥Ⅱの八戸寄港は3度目。今回は、26日から9日間の国内クルーズの途中、入港した。岸壁に集まった市民らが約800人の乗客を歓迎し、広々とした豪華な船内の見学などを楽しんだ。乗客らはバス18台に乗り込み、種差海岸や蕪島、十和田市の奥入瀬渓流、八甲田山系などを巡るそれぞれのコースで、青森の秋を満喫。午後4時半ころ、次の目的地・静岡県に向け出航した。

【 文化・スポーツ 】

No.	レポート
17	**歌人柳原白蓮の歌テーマに「蕪嶋の舞」完成**  鮫町の蕪嶋神社が来年の創建720年を前に、宮司の野澤俊雄さんが、元宮内庁式部職楽部部長の豊(ぶんの)英秋さんの協力を得て「蕪嶋の舞」を創作した。この舞は、大正から昭和にかけて活躍した歌人柳原白蓮が蕪島で詠んだ歌をテーマに、曲と振りを付けた作品で、10月17日に蕪嶋神社の奉納奉告祭で奉納された。奉告祭では、白い狩装束姿の舞手4人が蕪島の名物・菜の花のレプリカを持ったり、頭に飾ったりして、ウミネコが羽ばたくように両腕を大きく動かす振り付けで、白蓮を魅了した蕪島の美しい情景を再現。総代ら約50人が舞の完成を祝っていた。
18	**「新日本歩く道紀行100選シリーズ」に　種差遊歩道など認定**  全国各地にある地域の誇るべき道、健康づくりや観光資源に適したウオーキングコースを認定する「新日本歩く道紀行100選シリーズ　歩いておきたい1000の道」に、「みちのく潮風トレイル」から八戸市の種差海岸遊歩道と階上町エリア、一戸町と二戸市にまたがる「奥州街道　末の松山のみち」など、北奥羽地方から9カ所(5テーマ)が選ばれた。八戸市観光課はパンフレットなどを通じて認定コースとして周知する方針。「高低差が少なくトレッキング初心者でも楽しめるコース。市外からの人が増えるきっかけになれば」と期待を込める。
19	**明治神宮献詠短歌大会　八戸市の杉山靖子さんが特選** 明治神宮秋の大祭奉祝第133回明治神宮献詠短歌大会の特選に、八戸市の杉山靖子(せいこ)さんの「死にたしと生命(いのち)の電話に幼きこゑ頭上の星を見よといらへす」が選ばれた。今回の作品は、いのちの電話のボランティア活動の経験から生まれたと言い、「『いらへす』とは答えるという意味。子どもの悩み相談と、最近ぽつぽつと起きる子どもの悲惨な事件が重なってできた歌」と説明した。
20	**「第20回全国朝市サミット2015in八戸」開催** 「第20回全国朝市サミット2015in八戸」が10月17～18日の日程で八戸市で開催された。全国朝市サミット協議会と八戸市の湊日曜朝市会で組織する実行委員会の主催で、青森県では初開催。初日はグランドサンピア八戸で協議会を行い、各地から運営15団体の関係者ら約110人が参加し、情報交換を通じて交流を深めながら、朝市文化の継承を誓った。最終日の18日には、館鼻岸壁朝市で全国の物産品販売が行われ、関係者による視察や意見交換会が行われた。
21	**全国高専プログラミングコンテスト　八戸高専チームが初優勝！** 全国の高専の学生がプログラムの技術やアイデアを競う「第26回全国高専プログラミングコンテスト」の競技部門で、八戸高専の学生でつくるチーム「プログラムが一晩でやってくれました」が初優勝を飾った。コンテストは10月11、12日に長野市で開かれ、競技部門には国内外の大学も含め64チームが参加した。競技内容は、枠内に提示された絵柄部分の空きマスに、並べる順番と形状が指定されたブロックを埋めていくもの。1チーム3人で、制限時間内に隙間無く少ない数のブロックを埋めたチームが勝ちとなる。東北地区の高専が優勝するのは14年ぶり。

22	**ウルスラ高の奥平さん　声楽コンクール２大会で頂点！** 八戸聖ウルスラ学院高音楽科3年の奥平光音（みおと）さんが、第7回東京国際声楽コンクール高校生部門と、第69回全日本学生音楽コンクール東京大会声楽部門高校の部で、それぞれ1位に輝いた。両大会でモーツァルトの「さあ、ひざまずいて」を歌い、審査員から「選曲が良い」「伸びがあってしなやかな声が持ち味」との評価を受けた。12月に行われる全日本学生音楽コンクール全国大会の切符も手にし、奥平さんは「今後もステージに立つことを楽しみ、勉強する気持ちで臨みたい」と力を込めている。
23	**今秋　三浦哲郎氏のイベント続々開催** 八戸市ではこの秋、同市出身の作家三浦哲郎氏に関連した多彩なイベントが開かれる。市立図書館では10月31日から11月8日まで、三浦氏の親友だった同市の歯科医立花義康氏の家族から寄贈を受けた関連資料が展示される。11月20、21日には市内公民館で白銀中代用教員時代の三浦氏を主人公にした演劇「漁火見える丘ありて」の公演なども開催される。演劇や朗読会、資料展などさまざまな形で、芥川賞作家の歩みを振り返る。
24	**八戸ふるさと検定　受験者２０００人超えへ** 生まれ育った地域や、その土地ならではの魅力を再発見してもらおうと、八戸観光コンベンション協会が2009年に始めた「八戸ふるさと検定」の受験者が、11月1日に実施される上級検定で2千人を超える見込みとなった。受験者は40～60代が中心。観光従事者のほか、定年後の趣味として学ぶ人、また「会社でいろんな地方からの人に接することが多く、八戸を紹介したい」という会社員も増えているという。同協会担当者は「順調に市民に根付いてきた」と語り、今後は若者層への受験の広がりに期待を込めている。

【 県 内 】

No.	レポート
25	**青森県内でニホンジカの目撃最多　　２０１５年度延べ４１件４６頭** 青森県内の2015年度のニホンジカ目撃件数が10月26日現在で、延べ41件46頭で前年度1年間の40件45頭を上回り、過去最高となった。県内では明治時代に地域絶滅したとされ、岩手県が生息の北限とされてきたが、わずか半年余りで目撃数が前年度を上回るなど、生息区域が着実に拡大していることがうかがえる。個体数の増加は深刻な食害をもたらす可能性があり、県は警戒を強めている。